

ご近所の お医者さん

457

ウィメンズクリニック本町院長 **藤野祐司さん** 大阪市中央区

多のう胞性卵巣

もともと赤ちゃんの頃の卵巣には数百万個の卵細胞があります。卵細胞の入った卵胞が成熟して大きくなり、月に1個ずつ破裂することで、卵細胞が卵巣の外へ放出されます。これが排卵です。

比較的若い女性の不妊症の原因の

一つに、無排卵や排卵障害を起す「多のう胞性卵巣」があります。原因は解明されていませんが、男性ホルモンが多いことで引き起こされる症状が表れ

妊娠望むなら慎重に治療を

す。肥満傾向の方も比較的多く見受けられますが、欧米人に比べると割合は低いといわれています。

男性ホルモンが多いため、卵胞が卵巣の中にできているにもかかわらず、成長しにくく破裂、排卵しません。その結果、卵巣の壁が厚くなってしまいます。また、たくさん卵胞が卵巣の中にたまり、超音波検査で確認すると、排卵できなかつた卵胞が卵巣の表面に沿って集まり、ネックレスのように数

珠つなぎになって見えます。さらに、

月経周期が35日以上と長くなるなど月経不順をきたします。治療としては、糖尿病の傾向がある場合は1日30分以上の運動や炭水化物の制限といった生活習慣改善や栄養管理が重要です。

一方で、多のう胞性卵巣と診断された方が妊娠を希望する場合は、排卵誘発剤の使用が必要になることが多々あります。

す。排卵誘発剤の使用にあたっては「卵巣過剰刺激症候群」といって、卵巣内の多くの卵胞が一気に大きくなって卵巣が大きく腫れ上がる状態になったり、一気に多くの卵胞が破裂してしまいう多発排卵が起こったりします。一度にたくさん排卵して受精・妊娠すると、結果として超多胎妊娠となるなど、妊娠・出産時のリスクが高くなります。治療にはより慎重で専門的な外来管理が欠かせません。

